



豊岡市但東町のチューリップ祭り（今年はハローキティ）

## 目次 contents

・21世紀最初の国際博覧会 愛・地球博の見所	2
・盛り上がりました！「ほっといたらあかんやん！ 大阪湾フォーラム」	6
・配送効率化による環境負荷の低減に向けて	7
・世界遺産登録地での日本観光研究会開催	8
・地域でつくる保育園の取り組み	10
・次世代空港をめざす中部国際空港が開港	11
・「計画行政の実例から学ぶ講座」のご案内と 参加のお願い	12
・漢方薬としての一店一品運動とフォーラム	13
・セルフビルドイベント大盛況！	14
・うまいもの通信	15
・まちかど	16

# 21世紀最初の国際博覧会 愛・地球博の見所

〔名古屋事務所／尾関 利勝〕

はじめに 大阪万博から35年

1970年大阪万博から35年。西山卯三先生を筆頭に関西グループによる会場計画前段に参加した三輪会長、浅田OB会長、霜田鳥取大学教授の3人が上田篤先生の仲介で吉田山麓の長屋にアルバックを設立したのは1969年。翌年4月入社した私も今年でアルバック歴35年、三輪会長をのぞく現役最古参になりました。

アルバック所員も大阪万博を知らない世代が多数になっているように、この間の社会の変化、人口・経済・コミュニティ・文化・地域開発・法制度・国際関係、そして国民のライフスタイルの変化など、隔絶の感があります。

## 大阪万博が遺したもの

大阪万博を知らない世代にも論旨の理解を得るため、簡単に大阪万博を振り返っておきます。詳細は当時の経験者である三輪会長に何時の日か語って頂くことにしましょう。

東京オリンピック6年後に開催された大阪万博の第一の意義は日本の国際社会への復帰を世界に訴える国威発揚と国際交流の場でした。

第二の意義は日本の地域構造が大都市化するさなかで、阪神高速道路、地下鉄御堂筋線延伸、阪急千里線を整備、膨張する都市人口を収容する千里ニュータウンをはじめ、大阪都市圏北部の骨格的な都市基盤整備を促進したことです。

第三の意義は、万博計画、上述の基盤整備の過程を通して、様々な技術を蓄積し、新しい産業の芽を育て、その後の日本のオビニオンリーダーとなる多数の人々を関西で育てたこと、すなわち時代を開発した役割です。

私たちの仕事に着目すれば、日本の土木系コンサルタントは戦後の国土復興を契機に育ち、計画系コンサルタント・シンクタンクの多くは大阪万博の経験を契機に育っていきます。アルバックはその典型例の一つでもあるのです。

## 2005年日本国際博覧会・愛地球博の様子

大阪万博を下敷きにして、今回の特徴を拾い出してみます。35年の歴史を超えて共通すること、違いを読み取ることが出来れば幸いです。

### ①新都市建設を中断、会場を既存の公園に

博覧会誘致の発端は愛知学研都市構想の位置づけからです。名古屋オリンピック誘致がかな



開幕した「愛・地球博」の長久手会場 出典：中日新聞

わなかった地域の悲願の意味もありました。

このため、会場が縮小された八草に学術研究施設や住宅を含むコアタウンを構想し、そのシンボルとして博覧会が誘致されたのですが、地域の生態保存を望む声が上がリ、度重なる議論の結果、会場は新都市を造った大阪万博とは違い、既存の愛知青少年公園となりました。

環境との対応を世界が共有する博覧会の趣旨からすれば大英断です。しかし期間限定の博覧会空間だけでなく、環境に対応した暮らしを未来に提案する新都市づくりの機会が失われたのは惜しまれることでした。

### ②コンパクトで分かりやすい会場設定

会場が既存の公園となったため、収容力の限界から入場予定者は大幅に縮小されましたが、結果としては母都市名古屋に近く、コンパクトでわかりやすい会場設定になったと思います。

### ③自然の叡智を掲げた環境主題の博覧会

博覧会の企画は構想当初から中心プレーンが二転三転しましたが、自然の叡智をテーマとした環境を軸とする発想は変わっていません。

このため、会場造成や施設計画、工法～資材、エネルギー、運営などのあらゆる場面で、現代で可能な環境への対応が施されています。このような技術的テーマの共有が大阪万博にはなかった「愛・地球博」の特徴の一つです。

### ④手塚治虫の世界を見るような会場計画

丘陵頂部の雑木林を遺し、公園に利用していた谷の平場にクラスターとして施設群を配置、これを結ぶ動線は取り壊し可能な園内をループする空中歩廊としています。バス通行が不可能なささか大げさな空中歩廊の大架構は、博覧会の実験空間でしか実現し得ないでしょう。あた

かも手塚治虫が描く未来都市を思い浮かばせませす。このループの内側にイベント～コミュニティスペース、飲食サービスを配置する分かりやすいゾーニングになっています。もちろん場内を行きかう巡回バスは燃料電池使用などの環境対応車両であることは言うまでもありません。

#### ⑤環境に配慮した施設づくり

「施設は撤去」が博覧会の原則のため、政府、愛知県、名古屋市や主な企業パビリオン以外は、取り壊しが容易な同一モジュールの建物としています。このほか、パビリオンはじめ各所に木材や竹をふんだんに使い、派手さは無いけれど落ち着いた博覧会の情景を醸し出しています。

長久手会場の日本館は今回テーマを姿に表したように竹で編んだパネルで全体を覆う、竹籠を思わせる建物です。この先進例が愛知県設楽の田峰観音2月の祭に村民総出で編んで客席全体をつくる竹籠の芝居小屋。このように地元の伝統文化と現代がコラボレーションするのも21世紀最初の実験都市ならではのでしょう。

#### ⑥鉄腕アトムに会いそうなロボットの世界

文明史的に見た今回の特徴の一つはIT技術の活用です。35年前にはコンピューターはまだ計算機の時代でした。筑波博で花開いた映像技術はさらに大型化し、放送・通信技術とも連動して会場内外のパフォーマンスがリアルタイムに会場内の演出を盛り上げます。また、ITSを利用した交通システム、セキュリティ、マネジメントなど、実用化段階のITが駆使されているのが今回の博覧会の特徴でしょう。

中でも迷子・介護・案内からエンターティメントまで多彩に活躍するロボットは開催地・愛知の産業技術を代表する一つ。まさに鉄腕アトムの世界が実現されているのです。このロボッ

トの活躍にドイツの参加者からハノーバー万博よりも遙かに楽しいと高く評価されています。

#### ⑦外国パビリオンが楽しい

パビリオンの展示は博覧会の楽しみの一つ。トヨタを筆頭に日立、三井・東芝グループ、電力館などの人気が高く、どれも事前のインターネット予約が無いと入れない盛況です。また、世界121カ国4国際機関が参加した外国館の人気も高く、趣向を凝らした展示は仮設イメージが強かった大阪万博をしのぐ本格的な出展で、35年の世界の進歩を感じざるを得ません。短時間でお急ぎの方には予約不要の外国館をご覧になることをおすすめします。

#### ⑧本格的に世界のグルメが楽しめる

開会当初は弁当持ち込み禁止でしたが、その後可能となりました。弁当持参ご希望の方はご安心下さい。一方、この博覧会の特徴は世界のグルメを様々なレストランで本格的に楽しむことです。仮設の雰囲気が強かった大阪からサービスが一段と進歩しました。夜まで営業していますから、混雑時をずらして、世界のグルメをお楽しみ下さい。お値段はいろいろです。

#### ⑨庭師の気合いがこもる日本庭園は愛知の庭

愛知県パビリオンの東、ため池を活かした日本庭園を開会に先立って工事視察しました。

丘陵地特有のため池と小河川を活かした庭園は、東京のコンサルタントの設計で、これを現場で大胆に変更してしまった地元の庭師の変更理由は「もっと良くなる」のたった一言。

「雑木林を活かして風景をつくる」、「この機会に伝統の技を未来に伝える」この庭師の頭と職人の意気込みを聴いて、何気なく眺めるだけなら見落としがちで、設計を超越して自然に創られた風景を体験し、感銘を受けました。

最初の大きなため池は、周囲の雑木林に植栽を馴染ませた散策の庭。その上段に茶席と茶



会場案内・外国館のクラスター



竹籠のような長久手日本館



工事中のサウジアラビア館

庭、今時珍しくふんだんに使われる銘石は庭師自ら持ち込んだもの。さらに上段の小さなため池とせせらぎのまわりに5千トンの石を持ち込んだ庭は圧巻。既存の雑木林との境が目立たないように馴染みよく仕立て、春先は林立する巨石が姿を競い、夏には緑の葉に石が見え隠れ、秋には紅葉と石のコラボレーションが見事になる。そのコンセプトはとの問いに「見る人を脅かす発想」との答え、日本庭園と言うより「愛知の庭」と語る庭師の言葉にしばし納得。杓子定規な公共空間でも川が庭になる境界領域のニッチなしつらえに改めて感動を覚えました。

### ⑩突然現れるトトロの世界

三つ目のため池の畔には雑木林を背にした「サツキとメイの家」がひっそりと建つ宮崎駿描くトトロの世界が広がります。年配者には懐かしい大正・昭和戦前風の和洋折衷の小住宅がひっそりと建っています。こんな住宅は名古屋の街にもまだ残っているけれど、これが大変な人気、博覧会後に引き取りたいと言う希望が各地から寄せられているのには驚きました。

### ⑪ボランティアと国際友好の市民サポート

今回の大きな特徴は会場議論に単を発した市民参加です。当初予定地の八草は規模縮小されたものの市民参加の場として活かされました。また会場案内や清掃など、多数のボランティアが参加しています。また海外出展国とのホスピタリティの高い県民交流をめざし、一市町村・一国の国際交流が進められ、その経過の映画化が取り組まれています。今回は大阪のようにオピニオンリーダーをつくるのではなく、無名の市民参加をつくったのが特徴でしょう。

### 博覧会を支援するまちづくり・基盤整備

サテライトの展開は主会場を補完する今回の特徴ですが、都市圏交通網等の都市基盤整備は大阪万博と共通しています。



里山を活かした日本庭園



サツキとメイの家



会場を巡るループの構造

### ①博覧会を支援するサテライトとまちづくり

主会場の縮小を受け、来場者のおもてなしを補うサテライトイベントが名古屋で企画されました。ポケモンを掲げる笹島サテライト、20年ぶりに地上に降りた金しゃちに触れる名古屋城博(6月19日まで)、他に都心・広小路では近代建築跡でアプター5の国際交流の場「ナゴヤ文化屋台広場」が5月下旬から始まります。

この他、徳川園、川上貞奴邸移築、金山の複合ショッピングスペース・あすなる、名古屋港金城埠頭の娯楽機能、作家荒川修作の構想を盛り込んだ志段味循環型モデル住宅など、名古屋市内を楽しむ環境が多彩に整えられています。

会場縮小に始まった窮余の一策が、結果的には万博を契機とする「名古屋を楽しむまちづくり」に展開する過去にない例になりました。

### ②名古屋都市圏交通網の整備

会場アクセスと連動して基幹的道路網、大量輸送機関の整備が促進されたのは大阪万博と共通です。東海環状道路や第二東名高速道路の一部区間整備、県道名古屋・長久手線などが博覧会開催をめどに整備され、名古屋都市圏東部地域の高速交通体系の充実が図られました。

世界で初めての常電動吸引型磁気浮上式リニアモーターカー「リニモ」の営業路線が地下鉄「藤が丘駅」から愛知環状鉄道「万博八草駅」間に博覧会に先立って開通しました。平常時の輸送力を前提とするため博覧会ピーク時の輸送力不足が予想され、他の代替交通手段が用意されています。また会場へのマイカー来場を規制するため、会場周辺に臨時駐車場を設置し、シャトルバスで会場と結んでいます。我が家はそのすぐ近くです。

### ③博覧会に先立つ中部国際空港の開港

博覧会に先立つ2月17日、中部国際空港が開港、従来の名古屋空港は通勤と小型

機専用の空港に生まれ変わりました。

次世代空港を意図した24時間空港はローコストながら、動線が明快な国際的にも優れた空港です。開港初日からショッピングや飲食を楽しむ一般客で混乱気味でしたが今は落ち着いています。一見の価値有り、是非ご覧下さい。

関空の完成を待って着手された中部国際空港は、その遅れを博覧会と同時開港とするしたたかさが大阪万博とは異なる幸運な特徴です。

#### 万博の意味を考える 万国博と美術展

万博を国威発揚とだけ見がちな議論が多かった中で、昨夏から今年3月にかけて東京、大阪、名古屋で開催された「万国博と美術」展は、明治政府が初めて参加した1873年のウィーン万博、続くフィラデルフィア、パリ万博を中心にジャポニズムからアールヌーボーをはじめ、産業革命後の欧米と明治維新後の日本との文化交流の様子を博覧会出展の美術工芸作品を通して見せる優れた展覧会でした。成熟社会を迎えた日本で開催する二度目の万博に、地球史の文化交流の視点での議論があれば、より意義深いものになったと思えてなりません。

21世紀最初の国際博を見ながら、地球上を駆けめぐる文化交流を皆さんに検証して頂きたい、それこそが万国博の意義だと思います。

#### アルパック名古屋と万博の関わり

万博誘致構想から約20年、この間多数の人が博覧会に関わっています。アルパック名古屋は会場計画には携わりませんでしたが、構想段階～関連事業など、様々な関わりがありました。

##### ①あいち学術研究開発ゾーン構想

あいち学術研究開発ゾーン構想に関わる愛知県の調査をお手伝いし、構想実現に向けて、関西学研都市や万博誘致の議論が行われました。

##### ②東西文化交流の視点で万博の意義を訴え

名古屋城本丸御殿再建運動や青年会議所の皆さんなどと、博覧会と東西文化交流の視点から、市民の立場で万博の意義を訴えてきました。

##### ③産業技術博物館など博覧会事業の研究・提案

博覧会事業内容に関して、経産省や(財)中部産業活性化センターのプロジェクトをお手伝いしました。産業技術博物館、絶滅動物の復元等がテーマです。残念ながら実現していません

が、他の各種プロジェクトに反映されています。

##### ④空港調査会での中部国際空港への提案

空港調査会で中部国際空港の次世代空港コンセプトの立案をお手伝いし、賑わい・交流・情報機能を持つ空港の提案をしました。空港会社による実現を喜んでいます。

##### ⑤名古屋でのお迎えイベントに協力

開催前では笹島や名古屋城博へのアドバイスを求められ、広小路の「ナゴヤ文化屋台広場」には企業市民の一員として主催グループに参加しています。是非お立ち寄り下さい。また金山・あすなる、志段味循環型住宅、金城埠頭開発にもコンサルティングのお手伝いをしました。

##### 愛・地球博をご覧になる場合の注意

ご来場の際には以下の事項に注意し、愛・地球博をお楽しみ下さい。

##### ①時期は夏休み前の平日が適当

過去の博覧会例から夏休み～閉会間近の入場客集中が予想されます。これをさけて早い時期のご来場をおすすめします。

##### ②宿泊はインターネットで予約を

宿泊は予約が混んでいますが、インターネットで早めに調べればまだ可能です。豊田、岡崎、岐阜、多治見など近郊を探すのも良い方法です。

##### ③交通手段はリニモの他、多様な選択を

地下鉄藤が丘駅からリニモの乗車が最も便利ですが、ピークの混雑時には開場時間より早めのご乗車が安全です。他に名古屋、金山、千種からJR中央線高蔵寺経由で、またはJR岡崎駅から愛知環状鉄道万博八草駅に行き、そこから無料ゴンドラで本開場に入る方法もあります。

団体バスや乗用車で所定駐車場に停め、シャトルバスを利用するのも賢明でしょう。

④入場時は金属類、ペットボトルを持たずに  
セキュリティチェックが厳しいため、なるべく金属類を持たないでご入場下さい。またペットボトルが持ち込み禁止です。

##### ⑤協会ホームページなどの事前確認を

上記の他、協会ホームページの事前確認をおすすめします。博覧会を是非お楽しみ下さることを願っています。ご覧になった皆様のご感想をアルパック名古屋までお寄せ下さい。

愛・地球博公式サイト：<http://www.expo2005.or.jp/>

# 盛り上がりました！

## 「ほっといたらあかんやん！ 大阪湾フォーラム」

〔大阪事務所／原田 弘之〕

2月26日、大阪の長居公園にある大阪市立自然史博物館は、「大阪湾をほっとけない」人たちが約140名集まり、熱い思いに包まれました。淡路島の成ヶ島、須磨、神戸、大阪、堺、岸和田、貝塚、泉佐野、泉南、岬など、大阪湾を取り囲む市民団体や博物館、研究機関、大学、民間企業、行政など、日頃地域で活動されている40団体が集まりました。

### 迫力のある各団体のブース展示活動は多種多様

午前中は、「大阪湾おもしろ講座」と題して、大阪湾の魚や生き物、温暖化、外来種、青潮などに関わる話題提供のほか、各団体が展示したブースでお互いに交流を楽しみました。25m四方の会場壁面は、各団体のパネルやポスター、チラシ、グッズなどで、ほぼ3面が埋め尽くされました。そのテーマを並べてみます。

子どもと一緒に自然観察、世界規模のビーチクリーンアップ、ダイバーから見た大阪湾、漁港探検、海岸生物の継続的調査、元港湾行政マンの知恵、漂着ごみへの怒り、海浜植物の美しさ、流域全体での取り組み、自然再生、海の宝物探し、海藻おしばづくり、陸ガニ調査、海浜植物の散布・漂着実験、干潟の観察、大阪湾の産業再生、釣りインストラクターの役割、水族園の調査ボランティアなどです。

### 大阪湾の巨大マップを囲んで「わいわい座談会」

午後からは、参加された団体の活動紹介と問題提起や提案の時間です。一辺約5mのミニ大阪湾（航空写真）を床に敷き、その周りをみんなで見学します。発言者は、自分が活動している位置に靴を脱いで立ち、身振り手振りで活動を紹介していきます。

主な発言内容を紹介します。海辺は神様とのふれあいの場、山桜が咲くとサワラの漁期が来た、郷土料理、方言、自分たちは橋渡し役、

流域全体でゴミ問題に取り組もう、大阪湾にダイビングスポットをつくらう、何回とってもゴミが漂着してきてもう笑うしかない、浜寺水練学校で袴が真っ黄色になって泳いだ、インストラクターの育成できます、クラゲの標本作れます、魚が大事だから山に行き木を植える、大阪湾が一番汚いところでワカメを育てる、チリメンモンスター、釣り場環境モニタリング、海と海・海と陸をつなぐ、正当な対価をもらえる活動しよう、環境と食をつなげよう、大阪湾学をつくらう などです。

### つなげよう！わたしたちの「大阪湾見守りネットワーク」

フォーラムのまとめとして、2つのことを確認しました。定期的にフォーラムを開催し、第2回は神戸の須磨水族園を会場としよう。もう1つは、第2回へ向けて、団体等が登録する「大阪湾見守りネットワーク」をつくり、各団体が連携しながら活動していこうということです。このフォーラムは、大阪湾に関係する市民団体や専門家から構成される実行委員会を組織し、会合を重ね、企画・準備を行ってきました。大阪湾に関係する市民団体が、日頃の活動状況や問題点について情報交流するとともに、今後、大阪湾の再生に向けて、市民団体どうしで緩やかなネットワークを形成していくことをねらって開催したものです。ほぼ、その目的は達成されたのではないかと思います。

それにしても、これだけ熱い思いを持った方が、結集し、さらに大阪湾沿岸や各流域に住む多くの人を巻き込んでいけば、本当に大阪湾を再生できるような気がしてきました。アルパックは事務局を担当しましたが、この場をお借りして、ご協力いただいた方々、ご参加いただいた方々に感謝の意を表します。



140名もの人が集まったフォーラム会場 みんなでミニ大阪湾(航空写真)を取り囲む 22団体がポスターやグッズの展示

# 配送効率化による環境負荷の低減に向けて

## ～京都市都心部グリーン配送の試み～

〔京都事務所／石川 聡史〕



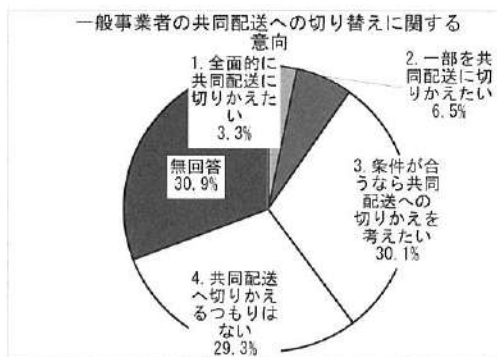
大気汚染や温暖化など地球規模での環境問題は年々深刻になりつつあり、京都議定書に基づく排出ガスの削減など国レベルで早急な対応が必要とされています。

京都市都心部でも通行車両の集中による慢性的な渋滞や排気ガスなど市民の生活に大きな影響を与える様々な環境問題が発生していますが、これらに対し、「物流車両の削減」「共同配送の推進」という視点から検討を進めた京都市の調査がこのほどまとまりました。

共同配送とは、別々の車両（トラックなど）で配送していたものを1台の車両に集約して配送するしくみのことで、環境にやさしい荷物の配送を意味する「グリーン配送」の一つの取り組みとして位置づけられます。

### 事業者の生の声をもとに検討

調査にあたっては、京都市都心部の商店街組合などから構成される「京都市都心部グリーン配送推進協議会」の協力のもと、協議会構成団体傘下の事業者を対象にヒアリングやアンケートを行いました。ヒアリングは商店やホテル、問屋、運送会社など20を超える事業者から行い、アンケートや事例調査とあわせて配送の現状、配送効率化にかかる課題等を整理し、その上で基本方針や具体の取り組みについてとりまとめました。



※無回答を除くと一般事業者の半数以上がなんらかの形で共同配送に切り替えたいと回答。

（アンケートは、京都市都心部の商店街組合員、京都織商卸商業組合員、京都府旅館生活衛生同業組合員の246事業者および（社）京都府トラック協会会員の130事業者から回答を得ました）



京都市都心部グリーン配送推進協議会

### 京都市都心部グリーン配送推進協議会のパンフレット

### 京都市都心部の実状に即した配送効率化

多種多様な品物が行き交う商店街等があちこちに点在する京都市都心部での配送について「共同化は難しいのではないかと。配送コスト削減など具体的なメリットが必要で、環境に優しいだけでは取り組めない」といった事業者の声が多く聞かれました。また、業種によっては配送時間や仕入れ情報管理などの面で進めにくいところもあります。

これらの実態を踏まえ、今後の具体の取り組みとしては、すでに一部業界で行われている共同配送の試みの拡大、宅配便業者の集約といった実現性の高い取り組みのほか、排気ガス滞留などの問題が深刻な状況にあるアーケード商店街での荷さばき場の設置と配送の共同化といった共同配送による大きな効果が見込まれる取り組みを打ち出しました。

### 前向きな事業者が多いことに期待

アンケート調査によると、条件付きではあるものの共同配送に前向きな事業者は多く（※）、今後の取り組みには期待が持てます。クリアすべき課題はありますが、行政と事業者が一体となり、京都市の都心部にふさわしい配送システムをつくりあげていくことが望まれます。

# 世界遺産登録地での日本観光研究学会開催

〔大阪事務所／小阪昌裕 高田剛司〕

## ■目映い白浜町での懇話会

日本観光研究学会関西支部の研究懇話会が白浜町・日置川町（和歌山県）の合併協定調印式（3月5日）の午後に開催されました。今回の会場である新「白浜町」（平成18年3月1日誕生）と翌日の分科会の会場である田辺市本宮町（本年5月1日、新「田辺市」としてスタート）は、アルパックが合併の建設計画策定のお手伝いをさせていただいたまちでもあります。

## 現地主義の研究懇話会

この学会は、1986年、120余名の設立発起人によって発足し（弊社も参画）、現在600名を超える留学生を含む大学関係者、観光関連業者、シンクタンク等の多彩な会員を有しています。

学会では、毎年、研究懇話会を開催し、観光地を訪問して現地の観光関係者と学会員が協力しながら、観光地の課題について検討してきています。昨年までに、大阪、京都、神戸、岡山等で開催されました。

今回は、和歌山県等の「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコ世界遺産に登録され8ヶ月を経過する時期をとらえて、白浜温泉において「温泉地と世界遺産登録後の課題」をテーマに、白浜温泉の課題、世界遺産活用への対応など和歌山県の観光のあり方について、意見交換しました。

世界遺産登録には前提となる条件があり、また6年に1回、条件チェックがあるそうです。ちなみに翌日訪問の本宮町の大斎原（旧本宮大社跡）への皇室が歩いた道は、近年になって日本一の高さの鳥居を新しく設置したため、世界遺産には登録されませんでした。

## 地域内外からの多彩な意見

溝尾会長（立教大学教授）の、滞在時間の増加をめざした長期休暇時代に備えた体制づくりの重視等の基調講演のあと、弊社の金井社長（関西支部副支部長）の進行によりパネルディスカッションを行いました。パネラーは、県観光局長、白浜町長、熊野古道を世界遺産に登録

するプロジェクト準備会代表、白浜観光協会副会長、白浜温泉旅館協同組合理事長、白浜町商工会会長、学会理事の大学教授の7人です。隣接地域の地元行政関係者、学会員も合わせて、行政、観光産業団体、住民団体、大学教員、観光関連事業者、シンクタンク・コンサルタント、約50人が参加しました。具体的には、休暇の集中化から平準化への模索、白浜来訪者の6割は関西で遠方客ほど世界遺産目当ての傾向、平和文化の象徴が世界遺産、県内へどう波及させていくか、白浜は心臓で隣接地とのネットワークが動脈でともに大切、女性がオシャレをしたくなる観光地づくり、海の利用の拡大など、産学官、地域内外の視点・立場から多彩な意見、提言交換がされました。

## 白浜町の旧名称は

白浜町といえばかつての新婚旅行地、夢、欲望、憧れの結晶のまちです。

実は、旧名称は「瀬戸戸山（かなやま）村」、地元地名は「湯崎」でしたが、後に地域外から命名されたという「白浜」のもつ「地名力」は、西洋化、都市化のシンボルとなり、町のイメージづくりにも寄与しました。現在町には、町行政、観光協会、旅館協同組合、商工会の4者の協議会の場があり、まさに観光立町で、南紀の牽引役です。“輝きとやすらぎと交流のまち白浜－住んでよい、訪れて楽しいふれあいのまちづくり－”をキャッチフレーズに、日置川町の体験観光とセット化で、世界の憧れのまち新「白浜」町を目標に今後の発展を楽しみにしています。

（小阪昌裕）



多彩な立場のパネラー



## ■世界遺産登録後の熊野古道と語り部の会

3月6日(日)、日本観光研究学会の分科会「ヘリテージ観光の研究」(研究代表:真田達也先生・京都光華女子大学)第3回研究会が本宮町で開かれました。

ヘリテージ観光とは、文字どおり訳すと遺産観光ということになり、文化遺産や自然遺産などが観光の対象となります。この分科会は、日本の世界遺産登録12か所のうち、5か所が関西に集中している状況を踏まえ、ヘリテージを地域づくりや観光振興にどのように活かしていくのかを研究していく場として、大学関係者や行政、旅行関係者、民間シンクタンクなどの多彩な学会員メンバーが入っています。

前日の会場(白浜町)から本宮町まで移動した後、観光カリスマの坂本勲生さん(本宮町語り部の会会長)に大斎原(熊野本宮大社の旧所在地)をご案内いただき、午後は本宮町役場の会議室をお借りして、語り部の会の方たちと学会メンバーの約20人で意見交換を行いました。ここでは、その時の話題を中心に、世界遺産登録後の本宮町の観光動向と語り部活動の抱えている課題について若干ご紹介し、当日感じたことについて触れたいと思います。

### 通過型観光の弊害

昨年7月、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録を受けました。世界遺産登録の時は、マスコミに頻繁に取り上げられ、登録後、本宮町への宿泊客数は2~3倍、日帰り客数は10倍も増加したそうです。

しかし、観光客の増加がすべて喜ばしいことばかりとは限りません。特に、本宮町では、大型観光バスで短時間立ち寄り「通過型観光」が増えているそうです。私が訪れた時も、熊野本宮大社そばの駐車場に大型観光バスが入れ替わり入ってきて、団体客でいっぱいでした。

このような観光になると、語り部の会への申込みも、通常4時間のコースを昼食込みの2時間でしてほしい、といったリクエストになってきます。したがって、熊野古道や本宮町の魅力

を伝えたい語り部の人たちにとって、限られた時間で十分に魅力を伝えきれないというジレンマが出てきているようです。ここには、マストゥリズムを扱う旅行者との関係も課題になってきます。

### 語り部と語り手の発掘・養成

語り部の会からは、語り部の質を高める研修の進め方がもう一つの課題として出されました。語り部の活動に参加している人は、他府県からのIターンやUターンの方もいらっしゃいます。それぞれの語り部が、一定の水準の知識を共有しつつ、独自の情報も踏まえ、自分の言葉で工夫しながら観光客に案内をしているそうです。語り部活動に取り組む人の研修には、他地域の語り部の会との広域連携も必要ではないかという意見が参加者から出ていました。

また、吉兼先生(阪南大学)からは、「文化遺産の資産価値を地域の人が共有していかないといけない。そのために語り部という専門家だけでなく、散策する観光客に気軽に話かける“語り手”を地域に増やしていくことも大事である」というお話がありました。

### 異なる文化を楽しめる観光地づくり

これからの観光は、訪れた地域で異なる文化をいかに楽しめるかが重要となります。地域の良さをビジターが理解するためには、語り部や語り手のような地域の文化を紹介する人が一層重要な役割を担うことになるでしょう。

私自身、今回の滞在時間がわずか数時間であったことを残念に思いながら、今度は、ゆっくり訪れてみたいと感じた一日でした。

(高田剛司)



最近増えている大型観光バス

# 地域でつくる保育園の取り組み

[大阪事務所／坂井 信行]



西宮市の北部、西宮名塩ニュータウンにこの春、保育園が開園しました。東山ぼぼ保育園。公募によって選ばれた名前です。地域の未来を担う子どもたちを地域全体で見守り、育みたいという住民の思いが、全国でも例を見ない住民自身がつくる社会福祉法人が運営する保育園として結実しました。住民として、保育園を必要とする子を持つ親として、私はこの取り組みに参加しました。

## 要望からプロジェクトチームへ

地域では、土地利用計画上の位置づけはありながらも用地費や運営主体などの問題から実現のめどがつかなかった保育園の設置をめざし、地域団体による要望活動が続けられていました。平成14年11月、保育園を望む住民の切実な声に後押しされ、有志住民によってプロジェクトチーム（東山台に保育所を実現する会）がつけられ、地域内でのニーズ調査や保育園についての学習が開始されました。

## 地域住民のまきこみ

平成15年5月、保育園設置の方針が西宮市によって示され、まもなくその候補地はニュータウンのシンボルでもある斜行エレベーターのステーションホール1階部分であることが明らかにされました。「ステーションホールは保育園の場所としてふさわしいのか?」「地域にとって望ましいステーションホールの活用策は?」保育園の問題は地域全体のものとなりました。

市民との協働まちづくりのあり方を模索しようとしていた西宮市は、この問題をモデルケースとして取り上げることを決めました。テーマはステーションホールの活用と保育園の新設。地域では主要な地域団体の連合により実行委員会が組織されました。

## 保育所学習会の取り組み

ステーションホールの活用策を考えるワークショップと並行して、地域にあるべき保育園について考える保育所学習会が保育所を実現する会の主導により開始されました。「保育園が地域にあることの意味は?」「良質な保育園とは?」学習会の成果は「東山台にあるべき保育所像についての提言—地域とともにある保育所づくりをめざして—」としてとりまとめられました。一方、ワークショップでは保育園の設置場所としてステーションホールの1階部分もやむなしという結論が出されました。

## 運営主体の立ち上げと施設づくり

学習会の提言を実現するべく、有志住民が自ら保育園の運営主体を設立することを決意しました。住民による社会福祉法人の設立という無謀ともいえる取り組みへの挑戦です。法人認可の申請手続きと保育園の施設設計、認可申請を並行して進めなければなりません。開園までに残された時間は1年です。公募によって法人設立準備会が組織され、必要な検討が進められました。

施設の整備は市が行い、運営法人は施設の無償貸与を受けるという形になりました。設計は公募住民によるワークショップ形式で進められ、基本設計レベルの図面を完成させました。法人の理事予定者が決定してからは、連日夜遅くまで議論が続けられました。

住民の膨大な知恵とエネルギーを結集した「社会福祉法人ほっとスマイル」と「東山ぼぼ保育園」は開園間近の3月下旬、認可されました。いくつかの論点

①ニュータウンの高齢化は宿命です。地域の関心事も小さな子どもから高齢者へと急速に移っていくことでしょう。法人は地域福祉の基盤として、地域の福祉課題にいかにかタイムリーに取り組んでいくかが問われます。

②旧来の社会福祉法人の理事には地域の篤志家や名誉職のイメージがあります。社会福祉法人という確立された枠組みの中で、多くの住民が広く関われるしくみをいかにつくっていくのか。理事の交代も含め、民主的なルールづくりが求められます。

③地域の子育て・子育て環境づくりという課題に対して、今回の取り組みでは住民自身が保育園をつくるという解決方策をとりました。必ずしも一般的な方策にはなり得ませんが、住民自治の一つのあり方として取り組みの検証と評価が待たれます。



陽光が差し込む保育園の「えんがわ」

## 次世代空港をめざす中部国際空港が開港

〔名古屋事務所／尾関 利勝〕

中部の空のゲートウェイとして期待されていた中部国際空港・セントレアが当初予定より早く2月に開港しました。万博開催前に準備を整えようという空港会社の配慮です。開港時にありがちな大きな混乱はありませんでした。

一般客が利用できる賑わい機能を持ち、動線の分かりやすい国際的にも優れた空港です。

この一般客の集中で大混雑したのが過去の空港開港時に例のない予想外の出来事でした。

中部空港調査会から、次世代空港としての導入機能とコンセプト立案を依頼され、検討に加わったアルパック名古屋としては、空港の完成と一般客の集中に感慨深いものがありました。

### 中部国際空港の概要

関空開港から約10年遅れで開港したセントレアは知多半島常滑市の前島から約1.5km沖に埋め立てられた580haの空港島にあります。関空第一期の510haを少し上回るのですが、空港部分はそれより少ない470haで、残り110haが都市開発用地になっています。ここに関空と同じ3500mの滑走路1本、延床約22万m<sup>2</sup>のターミナルが建設されました。約29.6万m<sup>2</sup>の関空よりコンパクトなターミナルです。

関空と同じ海上空港でも、地盤の良い浅い海を造成し、空港会社の企業努力もあって建設事業費は当初予定を大幅に下回る約7680億円でした。事業費を低減したねらいはIATA（International Air Transport Association）の条件から着陸料を安くしようとする空港会社の発想です。中部はジャンボ1機あたり約65.6万円、成田約94.6万円、関空約82.6万円ですから、国際的に着陸料が高い日本の空港が、いよいよ競争時代に突入したということになります。



出発カウンター・ロビー

成田、関空と比べると国際線の乗り入れが少ないのですが、国内線の乗り入れが最も多いため、トランジットの便利な空港としてハブ化をねらうのが中部の戦略のようです。

### 中部国際空港の見所

トランジットの利用も含めて空港の動線は分かりやすく構成され、個人的経験から見て国際的にも良くできた空港だと実感しました。

ローコスト設計ながら、要所に日本的デザインが取り込まれているのが印象的です。単純な長い動線に動く歩道を入れるのは今や一般的ですが、これに沿った壁を和の色の折れ壁にするなど、目立たない配慮をうれしく感じます。

西に向かって大きく開き、中央が突き出したターミナルから見る伊勢湾の風景は太陽で朝夕美しく演出されるロマンティックなデートポイントになるでしょう。その眺めを楽しむ銭湯が4階にあります。ここを賑わいターミナルとして飲食を集め、3階出発ロビーのおみやげゾーンと一体的に一般客も利用できる商業空間にしています。これが従来空港と違うセントレアの魅力です。開港からしばらくは一般客が集中しましたが、今は落ち着きを取り戻しました。

構想に関わった立場からすれば、より集積が大きく自立性の高いアミューズメント空間にしても良かったのではと欲を感じています。

### 中部国際空港とアルパック

私たちが中部空港調査会のご依頼で、空港導入機能とコンセプトの検討をお手伝いしたのは平成4年から7年、七次空整に向けた準備のさなかでした。交通、経済の学識者の方々から次世代空港のコンセプト提案に向けたご推薦を頂いたのがきっかけです。提案を一口に言えば次



一般客も楽しめる飲食・ショッピング



動く歩道沿いに「和の色の折れ壁」

世代空港コンセプトは「和の美観遊創」でした。

私を筆頭に大阪事務所の森脇、当時名古屋事務所の所員だった大阪事務所の田口が担当しました。なかなかモノが出来ないシンクタンク業務が多い中で、できあがることに深い感慨を覚えます。

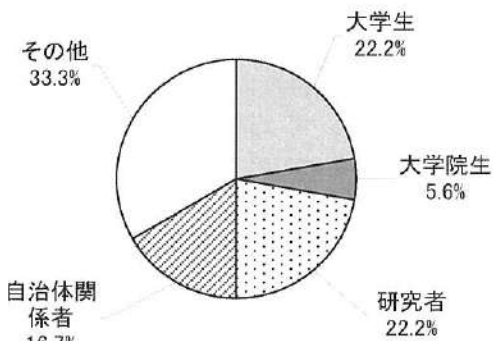
## 「計画行政の実例から学ぶ講座」のご案内と参加のお願い

〔大阪事務所／森脇 宏〕

日本計画行政学会・関西支部で「計画行政の実例から学ぶ講座」（略称：事例講座）の実行委員を担当しています。ご関心をお持ちの方は、ぜひご参加ください。

### 事例講座とは

関西に蓄積された計画行政のストック（総合的ノウハウ等）を、主に若手研究者、若手の行政職員、学生・院生等にトランスファーすることを目的としています。年間3～4回程度、関西を中



第1回講座のアンケートによる参加者の階層

心に活躍されている講師をお招きし、計画行政に関する実例（プロジェクト、計画制度、現場の経験談等）に即して語っていただいています。

夕方から約2時間（前半1時間：ミニ講演、後半1時間：セッションタイム）、大阪市内で開催し、会員・非会員の区別なく門戸を開けています。参加費も会員・非会員とも一律千円で、学生・院生は無料にしています。

なお、講師には、裏話も含めて自由に本音を語っていただくようお願いし、講座後に講師を囲む懇親会（会費3千円）を会場近くで行っています。

### これまで2回開催しました

昨年12月開催の第1回講座では、大阪市のまちづくりに長く係わってこられた大阪市計画調整局長（当時）の岩本康男氏をお招きし、「大阪市のまちづくりの変遷～高速道路計画からシティプロモーションまでの工夫～」と題してお話いただきました。

今年3月開催の第2回講座では、兵庫県において市町経営の自立化の応援を続けてこられた（財）21世紀ひょうご創造協会・元総括理事の福田丞志氏（現在は（特活）ひょうご・まち・くらし研究所 理事長）をお招きし、「市町村経営の自立化をめざした経験と展望 ～近年の合併、三位一体改革、規制緩和、住民参加、パートナーシップなども視野に入れて～」と題してお話いただきました。



第2回講座の様子

## 非会員も歓迎します

前述のように学会員でない方も参加できますし、歓迎しています。次回（第3回講座）は、6月に豊中市助役の芦田英機氏をお招きして開催する予定です。具体的な日程などが決まれば、関西支部のホームページ（<http://japa-kansai.kir.jp/>）でご案内します。また、メールでの開催通知をご希望の方は、支部事務局へお申込みください（[japa-kansai@kagoya.net](mailto:japa-kansai@kagoya.net)）。

## 漢方薬としての一店一品運動とフォーラム

【大阪事務所/中塚 一】

平成10年度より全国各地で、中心市街地活性化に向けた取り組みが、中心市街地活性化基本計画及びTMO構想づくりに基づいて進められてきましたが、「計画や構想が出来たが具体化しない」、「市民レベルの活動に展開していかない」、「商業者が動かない」等の声が聞かれ、実質的な活動や事業になかなか結びついていない地区が多く見られます。中心市街地活性化は、もはや商業者だけによる商業振興や、行政だけによる公共施設整備などの対応だけでは解決できないのは明らかです。

このような状況の中で、大阪府の茨木市では、計画づくりのプロセスを重視し、「計画づくりから様々な人々に関わりをもつていただき、中心市街地を愛し、中心市街地で活動する人をどれだけ増やすか」を視点に、計画づくりと並行して様々な活動に取り組み、一歩一歩、成果を積み重ねておられます。

3月12日に開催された「茨木まちなかイベント」&「茨木TMOフォーラム」においても、TMO構想の基本理念である「つなぐ」をどれだけ実践できるかを主眼に、阪急茨木市駅西側周辺の7つの商店街と茨木神社で、様々な市民や商業者、学生等による新しいチャレンジが繰り返されました。

## まちを元気にするまちなかイベント

「まちを活性化するというのに、ホールの中でやっていてどうするの?」の一言のもと、異常気象の電の降る中、午後1時から、様々な商業者や市民、学生の方々の協力や連携で、まちなかイベントが開催されました。今回は、「思い出の写真展」や「バルーンアート」、「ダンス・パフォーマンス」、「炭木ナンバーワンコンテスト」などの市民・学生等を中心としたイベントとともに、阪急茨木駅西側周辺の7つの商店街が連携して、各店の自慢の一品を紹介してもらい、イベント会場で一堂にパネルや現物の展示を行った「自慢の一品フェア」と7つの商店街を廻る「これ、「えーやん」、ところでナンボ?スタンプラリー」が開催されました。

ご存知の方が多いと思いますが、「一店逸品運動」は、即効性はありませんが、個店や商店街全体の体質改善を促す漢方的処方箋の有効な一つであり、今回も初めてで短期間でしたが、除々に利いていく兆候がありました。

## 人と人との出会いの場としてのフォーラム

午後6時からのフォーラムでは、策定したTMO構想(案)を単にお披露目するのではなく、市民による「竹灯籠」での参加者のお出迎えから始まり、店主によるわが店自慢・自信の一品紹介や一品を実際に試食しながら、アットホームな雰囲気の中で、この1年間の様々な市民や商業者等の活動を振り返り、新しい人と人と



まちなかイベント会場での一店一品フェア



アットホームなTMOフォーラムの出会いを通じて、明日の活動への元気のビタミン源としての「フォーラム」となるように企画・運営されました。

このようなお互いの顔が見える人間関係が広がっていくことが、まちの活性化には、最も重要であると実感しています。

### セルフビルドイベント大盛況！

〔大阪事務所／嶋崎 雅嘉〕

3月13日に兵庫県神崎郡大河内町の大川原地区で「セルフビルドイベント」が開催されました。

このイベントは、大川原地区の住民が主体となって、地区内にある「カクレ畑」と呼ばれる土地を使い、集落の活性化を進めるための第一歩となるイベントです。当日は、定員50名のところ、主に阪神間の都市住民から100名以上の申込みがあり、大変盛り上がりしました。

イベントでは、「セルフビルドビギナー講習」と銘打ち、ログハウスビルダーの方や、セルフビルドに現在取り組んでいる方の、経験談やアドバイスをお聞きしました。実際のセルフビル



間伐材を使った木工体験

ドの経過を写真などで説明していただき、参加者の方々にとっては、今後自分でセルフビルドに取り組む際のイメージがふくらんだのではないかと思います。

午後からは、地元の女性達による「山賊鍋(猪肉入り)」や「鹿肉の焼肉」「おむすび」「漬け物」などに舌鼓を打ったあと、間伐材を使った木工体験に取り組みました。

地元の方々がチェーンソーなどで手伝いながら、丸太でできた椅子や鍋敷き、花台など、思い思いのものをつくって持ち帰りました。

### セルフビルドの村づくりとは？

大川原地区では、「高齢化が進み、若い人がいなくなった」、「農業を続けるのがしんどい。後継者もない」、「若い人に来てもらいたいが大変な場所なので難しいのではないか」といった悩みを抱えています。そこで、「ログハウス」「セルフビルド」に関心のある方々に呼びかけて、この「カクレ畑」での定住や半定住について考えてもらう村づくりを進めることとなりました。

今後、セルフビルドに関心のある方々による「セルフビルド倶楽部」を立ち上げ、セルフビルドに関する勉強会や体験等を行い、近い将来「カクレ畑」で自分の家を建ててもらいたいと考えています。

### セルフビルドの元気パワー

セルフビルドをテーマに村づくりを進めるねらいはもう一つあります。

セルフビルドに関心のある方は、「手作り」が好きで「家・暮らし」にこだわりを持っているので、きっと大川原地区に「元気な力」を持ち込んでくれるのではないかと考えています。そのため、「セルフビルド倶楽部」では、地元の方々との交流も深め、田舎での暮らし方や農作業などを肌で感じてもらい、移り住んだ後も、馴染みやすい関係を築くとともに、将来の村づくりの人材として活躍していただけることを期待しています。

「セルフビルド」や「田舎暮らし」「村づくり」に関心のある方は、是非一度、大河内町を訪れてみてください。

大河内町ホームページ

<http://www.town.okawachi.hyogo.jp/>

## アドベリー

～まちおこしを魅力ある特産品開発に託して～  
〔京都事務所／大久保 悠子〕

### おいしく健康で希少な果実による地域経済活性化

欧米では、健康果実として人気が高く、国内で出回っていないボイズンベリーを導入し、平成18年6月にオープン予定の道の駅「藤樹の里あどがわ」の目玉商品の特産物として育てる計画が高島市安曇川町で進んでいます。道の駅に備えた特産品を安曇川町商工会が中心になって検討する中で出会ったボイズンベリーの「斬新で鮮やかな存在感」に、地域農業を元気付ける起爆剤としての夢を託しました。安曇川町の農業者、商工業者、流通業者がこの特産化に取り組もうと協力し合って作った「アドベリー生産協議会」（協議会メンバー38人）が、安曇川町と安曇川町商工会の支援の下に平成15年10月に新たに設立され、栽培・加工・販売に向けて活動を続けてきました。

### アドベリーの特徴

「アドベリー」はボイズンベリーを安曇川で栽培するにあたりネーミングされたものです。ボイズンベリーはブラックベリーとローガンベリーの掛け合わせたもので、1920年代後半に品種改良で誕生し、現在はニュージーランドが最大の生産国です。果実はイチゴ大で、熟すと黒紫色になり、酸味の強い甘さ、みずみずしさとひきつける香りが特徴です。ブルーベリーの6倍の抗酸化成分があり、葉酸とアントシアニンの含有量が際だって多く、また他の果実に比べビタミン類や食物繊維も多く含有しています。このようにアドベリーは健康増進のために非常に優れた果実で、疲れ目を改善し視力を向上させる、活性酸素の生成を抑制し血液をきれいにし、肝機能を向上させる、血圧を抑制する等の効用が報告されています。

### 国内での栽培と商品化への動き―地域をつなぐ活動の活性化―

国の特産品保護のため種やつるのものをニュージーランドから国外へ持ち出すことは容易な事ではありませんでした。しかし「何としてもアドベリーで自分たちのまちを元気にしたい」という協議会の情熱により、ニュージーランド「ベリーフルーツ協会」を通じて、平成16年7月に

50本の苗を譲り受けることができ栽培が始まりました。それと同時進行で、近江安曇川で創業70年の和菓子処(有)とも栄などが、輸入したボイズンベリーの濃縮ジュースや冷凍果実を使ったアイスクリーム、ヨーグルト、ケーキ、パンなどを試作開発したところ、味は良くいずれも上々の出来栄で商品化の目途がついています。このように栽培農家と商工業者が協議会を結成し事業を進めるのは初めての試みで、互いに良い刺激を受けるなど将来、産業の中心として地域の活性化につなげるのが期待されます。

同協議会の取り組みに対して、平成16年1月には近畿経済産業局がプロジェクトチームをつくり支援を開始し、6月には政府の地域再生計画の初認定の計画の一つに認められて活動はさらに活発化しています。また、日本貿易振興機構の支援事業に基づき、ニュージーランドへ視察団を派遣したほか、7月にはニュージーランドで最大のボイズンベリー栽培農家を招いて栽培や加工面等の技術指導を受け、こうした交流を通してニュージーランドと安曇川町関係者の協力はますます密なものとなっています。

### アドベリーがもたらすまちおこしと人づくり

昨今「健康商品」が大きなブームとなっていますが、健康に効く多くの機能を持ち、国内ではこれまで知られていない果物にまちの将来を託す前例のない取り組みに、地域が一体となり試行錯誤しながら活動しています。ニュージーランド関係団体への協力提携の要請、アドベリーの果実をかたどった紫色がベースのシンボルマークやロゴマークの作成、各種パンフレット等のPR資料の作成、商品化に向けた様々な試作開発等、商工会を中心に関係機関の協力も得ながら全て手づくりで短期間の内に取り組んでいます。地域の夢に情熱を持って粘り強く対応する中でアドベリーの栽培がまちの活性化を担う人づくりにつながっています。地元の期待も日に日に大きくなっています。6月18日(土)19日(日)に安曇川図書館駐車場内(道の駅建設地の南側)で開催する待ちに待った収穫祭に向けて現在準備を進めています。



# ま ち か ど

## 樽の中は癒しの空間？

〔大阪事務所／中村 孝子〕

子どものころ酒蔵や味噌蔵などに連れていってもらってわくわくした記憶があります。蔵の中は、ひんやりとした巨大な空間で、圧迫感のある樽などがつくる影はなんだか謎めいていて、鬼ごっこやかくれんぼするには絶好の場所でした(叱られるので静かにしていましたが)。

近年、蔵が醸造業の廃業や近代化でどんどんなくなっていく中で、その魅力は変わりません。むしろ大きくなっています。まちの景観美を形づくるその外観は、街並みを楽しませてくれるだけでなく、中は喧騒を忘れるための貴重な場所となっています。そんな空間に漂う時間が好きなのは私だけではないでしょう。

一方、建物同様、醸造業で使用されていた仕込み樽もステンレスタンクになったり、その姿を消しつつあります。最近では、造り酒屋を利用したレストランは珍しくありませんが、樽を利用したレストランが岸和田市にあるというので訪れてみました。

レストランは、車でしか行けない少々不便な場所にあり、小高い山を登った400坪の敷地に配置されたたくさんの樽群にまず圧倒されます。

使用されている樽の大半は、龍野市の醤油メーカーにあったもので、古いものは200年前に作られたものとのこと。仕込み樽の部



二階建ての樽

屋は、全部で46室あり、樽を縦置き、横置き、二段(二階)に積み上げたもの、大きさも大小様々で、一番大きな部屋は複数の樽がつなぎ合わされていました。雪隠まで樽を利用しているこだわりぶりで、その発想に感心させられます。

さて、長い年月を見守ってきただろうどっしりとした樽の中で、窓からの心地よい風に撫でられていると時間がゆっくり流れていきます。なんだか私も熟成されているような気分です。普段、蔵の中を覗くことはできても樽の中までは覗くことはできない。そういう好奇心とおなかも十分満たされ帰路につきました。

山麓苑：岸和田市河合町 1180

tel 0724-46-8018



写真上：樽の部屋 写真下：雪隠

## アルパック (株)地域計画建築研究所

本 社

URL: <http://www.arpak.co.jp> E-mail: [info@arpak.co.jp](mailto:info@arpak.co.jp)

京 都 事 務 所 〒600-8007京都市下京区四條通り高倉西入立売西町82/TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

大 阪 事 務 所 〒540-0001大阪市中央区城見1-4-70・住友生命OBPプラザビル15F/TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478

名 古 屋 事 務 所 〒460-0003名古屋市中区錦1-19-24・名古屋第一ビル8F/TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760

東 京 事 務 所 〒186-0001東京都国立市北1-1-17・田畑ビル 3F/TEL(042)501-2531 FAX(042)501-3024 分室/TEL(03)3226-9130

九 州 事 務 所 (株)よかネット 〒810-0802福岡市博多区中洲中島町3-8・福岡パールビル8F/TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128